



主な内容

- 巻頭言—— 図書館長就任挨拶
キャリア支援センター長就任挨拶
- 特集—— リプロダクションセンター -最先端の不妊治療を提供-
- 令和3（2021）年度決算
令和4（2022）年度予算
- トピックス—— 内丸MCと連携病院が感染対策向上のための
「石割桜感染連携会」を起ちあげました
- 募金状況報告
表紙写真：胚培養士による顕微受精（関連記事P.3-5）

図書館長就任挨拶

ふるやま かずみち
図書館長 古山 和道

(生化学講座分子医化学分野 教授)



令和4年4月1日付で図書館長を拝命いたしました古山和道と申します。岩手医科大学報の紙面をお借りいたしまして岩手医科大学教職員ならびに関係各位の皆様にご挨拶を申し上げます。

本学の附属図書館の源流をたどりますと、明治30年に三田俊次郎先生が私立岩手病院開設時に併設された岩手図書館に行き着くものと思われまふ。当時、岩手県内の各地から集まった若者たちが読みふけた医学書の一部は現在も「岩手医学文庫」に収蔵されています。これらも含め、現在の附属図書館は内丸図書館と矢巾図書館の2箇所合計29万冊を超える蔵書数を誇っており、岩手県内の自治体や大学等の図書館との連携の元、様々な企画展示を随時行っています。

しかし附属図書館の役割は図書の購入・管理・利用だけではありません。電子ジャーナルの契約やデータベースの契約・管理も図書館が担っており、学修・研究・診療にまたがる「情報のhub」としての役割が大きくなっています。多くの利用

者は学内の各所から電子ジャーナルやデータベースを利用していらっしゃると思いますが、教職員と学生は出張先や自宅からでも図書館のホームページを経由してこれらにアクセスできるのをご存知でしょうか。利用に先立ち学内からの登録が必要な機能もありますので、詳細は図書館ホームページのリモートアクセスのリンク、あるいは各データベース名の横の虫眼鏡マークからご参照ください。また、必要な文献に直接アクセスできない場合でも、図書館ホームページから学外文献の複写を依頼することにより、多くの論文は実費(コピー代と郵送料)のみで入手可能です。

電子ジャーナルの相次ぐ値上げや円安の影響も大きく、皆様からご要望いただく全ての学術誌を揃えることはできませんが、できる限りの努力をして皆様のご希望に沿った機能を提供していきたいと考えております。皆様の積極的なご利用をお願い申し上げて、図書館長就任のご挨拶とさせていただきます。



キャリア支援センター長就任挨拶

くどう けんぞう
キャリア支援センター長 工藤 賢三

(臨床薬学講座臨床薬剤学分野 教授)

本年4月より、前任の中西真弓教授から引き継ぎ、キャリア支援センター長を拝命いたしました。医学部教授2名(平英一、下沖収)、歯学部教授2名(原田英光、小笠原正人)、薬学部教授4名(野中孝昌、高橋寛、奈良場博昭、工藤賢三)、看護学部教授3名(蛸崎奈津子、遠藤龍人、菖蒲澤幸子)で構成するセンター会議、学部ごとの教員で構成する専門部会及び事務室(事務員3名)の各組織構成員とともに本センターを運営して参りますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

さて、本センターは「学生の社会的自立に向けた実践的な能力形成と就職活動などを支援すること」を目的として、薬学部1期生の卒業・就職に合わせて設置され、これまでに1,000名を超える薬学部卒業生のキャリア形成及び就職などの支援を行って参りました。また、平成29年度に開設された看護学部も既に2期生まで約180名が卒業しており、職業に対する意識を高め、自分にあった職業や就職先を選択するための支援を行って参ります。本学の卒業生が医療人として、専門性を生かし、生き活きと活躍している様子を見聞するたびに、心から嬉しく思うと同時に本学の医療系総合大学とし

での社会への役割と責任を強く実感しております。

本学は、医・歯・薬・看護の4学部が揃う医療系総合大学として、質の高い医療人を育成し、社会に輩出する役割を担っております。在学中から、職業意識、職業観の醸成を図るとともに、将来、どのような人生を送るのか自分自身のキャリアをデザインし、卒業後も自立した医療人として主体的に学び行動し、そして人生や職業にやりがいを持って社会に貢献し続ける人材を育成することは大学として重要なことと考えます。本学の卒業生が全国各地、幅広い領域で大いに活躍し、高い社会的評価を受けることができるよう本センターの役割を再度認識し、変化する社会状況を踏まえながら学生のキャリア形成をきめ細かく支援して参りたいと思います。

最後になりますが、本学の同窓会組織である圭陵会は各地に支部会があり、日本全国各地に就職しても卒業生を温かく支援して頂いております。今後も引き続き、卒業生のさらなる活躍と発展を目指したキャリア支援センターの取り組みにご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

特集

リプロダクションセンター —最先端の不妊治療を提供—

最先端の不妊治療の提供を目的に、2019年、内丸メディカルセンター内にリプロダクションセンターが設置されました。患者さんの容体や希望に合わせた治療を行っている当センターのスタッフにお話を伺いました。

はじめに

厚生労働省は2021年の出生数が84万2897人と発表し、前の年と比較して29,786人減り、6年連続で過去最少を更新しています。生活スタイルの多様化に伴い、子どもを望まないカップルの増加や、新型コロナウイルスの感染拡大で婚姻数が減り、妊娠を控える動きも強まっている事が主な理由とされています。

それとは別に、子どもが欲しいカップルが、妊娠出産出来ない理由に不妊症があります。子どもを望むカップルが、1年間性生活を営んでも妊娠しない場合を不妊症といいます。これは医学的な原因だけでなく、女性の就業率の増加やそれに伴う社会構造の変化により晩婚化が進んだ事も影響し、現在では6組に1組のカップルが不妊に悩んでいるとされています。

「女性年齢が上昇すると妊娠しづらくなる」というのは事実ではありますが、不妊症の原因の約半数(両性に原因がある場合も含む)は男性側にあります。また女性・男性とも年齢に限らず専門的な検査によって初めて原因が判る事もよくあります。不妊治療はカップルが足並みを揃えて検査・治療を進めていく事が非常に大切です。

リプロダクションセンター

旧附属病院中5階病棟にありました「高度不妊センター」を、矢巾附属病院移転/内丸MC開院事業の際に内丸MC入院棟3階に移設し、名称も「リプロダクションセンター」と変更しました。それぞれのカップルが抱える不妊の悩みについて個別に診察し、2人の希望や考え方を最大限に尊重しながら治療を行っています。また、将来の妊娠に備えて、現在抱えている子宮内膜症など婦人科疾患の診療を行う「プレコンセプションケア」も積極的に行っています。その他、岩手県不妊専門相談センターも同じフロアに設置し、体外受精などの生殖補助医療等に関する不妊相談(毎週火・水午後:電話相談、毎週木午後:面接相談)を行っています。外来診療に関しては毎日開設しております。午前中の受付は11時まで、午後は予約制で診療しております。なお生殖医療に関する新患は予約制となっております。詳しくは内丸MCの産婦人科生殖医療外来(内線:7331)までお問い合わせください。

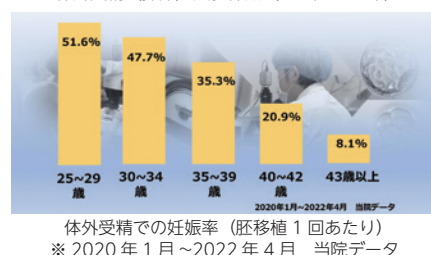
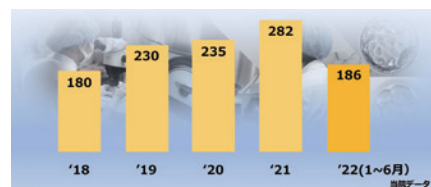
		月	火	水	木	金	土
午前	新患	○	○		○	○	
	再来	○	○	○	○	○	○
午後	再来	○	○	○		○	

診療日

診療実績

人工授精は年間400~500件程度実施し、個々のカップルの状況に応じ自然周期、あるいは排卵誘発薬併用いずれも行っています。妊娠率は年齢や不妊原因により異なりますが、概ね5~10%/周期程度です。5~6回程度実施しても妊娠成立しない場合は体外受精へステップアップすることをお勧めしています。採卵は年200~300件程度、胚移植は新鮮胚と凍結胚を合わせて年250件程度実施しており、ここ数年は増加傾向にあります。さらに今年は4月からの体外受精保険適用に伴い、例年以上の件数で推移しております。

妊娠率は当院の特性上子宮内膜症や子宮腺筋症など妊孕性に影響を与える合併症を有する方が比較的多く含まれておりますが、全体で30%程度です。年齢別妊娠率に関してはグラフをご参照ください。



Q 不妊症とは？

「健康な男女が一定期間（約1年）避妊をせずに性交しているにもかかわらず、妊娠に至らない状態」のことを言います。2019年の値では、岩手県では4,500組ぐらい結婚されていて、そのうちの1割強ぐらいの方が不妊のカップルだと考えられています。

Q 不妊症の原因は？

原因の比率として男性・女性が半分半分といわれています。男性は精子の問題が多く、中でも造精機能障害と呼ばれる精子が生成されないなどの問題を抱える方が最も多いです。最近では、身体的もしくは精神的に性行為自体が苦手だったりする場合は挙げられます。女性は、男性の精子に対応する卵子の問題としていい質の卵子ができなかったり、卵子と精子が出会う道筋である子宮や卵管で異常があり、受精や着床ができなかったりすることが原因となります。



馬場 長 リプロダクションセンター長
(産婦人科学講座 教授)

Q 不妊治療とは具体的にどのようなものですか？

大きく分けると「タイミング法」「人工授精」「体外受精」の3つあります。タイミング法は月に1～2回程通院が必要で、受診時に経膈超音波検査で卵巣を見て排卵の時期を予測します。排卵に合わせて夫婦生活のタイミングをとっていただきます。人工授精は月2～3回程受診が必要です。排卵予想日の数日前に超音波検査を行い、人工授精日を設定します。注入器を使って精子を直接子宮の中に注入するため、人工授精の当日にご主人の精子をカップにとってきてもらうことが必要になります。それをそのまま使うのではなく、胚培養士が精子の調整を行い、元気に動いている精子だけに下処理を行い子宮の中に入れるというものです。体外受精は月5～6回程受診が必要となり、排卵誘発剤を使って卵子をたくさん取れるように育ててから採卵を行います。精子と卵子を採取した上で、シャーレ上で受精を促したり受精卵を成熟させたりしてから、子宮に戻して着床を図ります。また、体外受精のうち、顕微鏡で観察しながら卵子に注射針等で精子を注入する顕微授精と呼ばれるものもあります。



尾上 洋樹 医師
(産婦人科学講座 助教)

Q リプロダクションセンターの特徴は？

当センターには生殖医療専門医、産婦人科専門医、卵子学会認定胚培養士、不妊カウンセリング学会認定不妊カウンセラーなどの資格を持った職員が在籍し、それぞれの専門領域で活躍しています。当院は大学病院という特性もあり、子宮筋腫、子宮内膜症など妊娠を目指すにあたり手術療法が必要となる方が多くいらっしゃいます。妊孕性を考えた手術と不妊治療を一連の治療として行えるのが当センターの特徴と言えます。

Q 不妊治療の一連の流れを教えてください。

実際に診療した患者さんの例で紹介します。その方がご結婚されたのは39歳でした。結婚して1年経過後し、妊娠できなかったので本学附属病院を受診しました。2～3回人工授精を行い、その後体外受精に進んで治療しました。体外受精になると週2回程、来院していただかなければならず、その方は会社を経営し常に忙しく働いていらっしゃる方だったので、通院の頻度が上がったことで疲れている様子でした。ご主人も、その治療のサイクルの時には必ず1度は来ていただくようにしていただきました。結果としては1回の採卵では妊娠成立せず、2回目の採卵で出来た受精卵で妊娠されました。(通院されている方々の就業に関しては、個人的にはなるべく仕事と通院治療を両立していただきたいと思っており、なるべくフレキシブルなスケジュールでの治療を提供出来る様心掛けています。) リプロダクションセンターでは妊娠初期まで診療し、そのあとのお産は矢巾附属病院や他の分娩施設に紹介することになります。紹介先はどこが一番良いか、妊娠中や分娩時のリスク等をご夫婦に説明し相談しながら決めていきます。

Q 治療費はどのくらいでしょうか？

今年の4月から「一般不妊治療（タイミング法、人工授精）」と「生殖補助医療（体外受精、顕微授精、男性不妊の手術）」が保険適用になりました。目安としては、体外受精では、排卵誘発～採卵～胚移植までの1サイクルの治療を受けると投薬等も含めて、自己負担額は10～20万円前後になるとされています。また、自治体によっては独自の助成金を出しているところもあります。保険適用により、今後多くの人がかかる治療になると予想されています。

Q 診療時に気を付けていることはありますか？

診療自体がデリケートな内容であるので、私は同じ女性として話しにくい内容や相談しにくい内容を気軽に話してもらえそうな診療を目指したいと思っています。ご夫婦のことや妊娠への思い、周りに話しづらいことを気軽に相談してもらえのように、意識して声掛けや診療をしています。

Q 女性医師ならではのメリットは？

女性特有の、身体の不調や心の悩みを体感しているため、患者さんの悩みに深く共感できることは強みと思っています。また、ご主人も一緒に診療に来られる場合、普段ご夫婦では話せない内容を私が加わって3人で話す事で、ご主人に「奥さんは日頃こういう事で大変だったのだな」ということを伝えられることがあります。この外来を通じてご夫婦の架け橋になれることが、女医ならではのメリットです。

Q プレコンセプションケアとは？

「いつか赤ちゃんを授かるかもしれない」ということを想定して、自分のからだや生活習慣をより良くしていくことです。将来のからだの健康は、今を積み重ねた延長線上にあります。赤ちゃんの重要な臓器は、お母さんが妊娠に気づく頃にはすでに基礎ができあがっています。若い人の偏った食事や過度なダイエットなどは骨粗鬆症といった自分の健康問題だけでなく、将来の子どもの健康にまで影響します。だからこそ、プレコンセプションケアは赤ちゃんを産む産まないに関わらず、皆さんに知っておいてほしいです。さらに、毎月の生理の悩みを軽くしたり、肌がきれいになったりと、美しく健康的な毎日にも繋がります。妊娠を考えている人はもちろん、「妊娠なんてまだまだ先」と考えている10代や20代の方にも、今から始めてほしいケアです。

Q 不妊で悩んでいる方へメッセージをお願いします。

なかなかお子さんを授からない理由はなんなのだろうと悩まれている方、まずはご自身のお身体の状態を知り、妊娠へ向けた準備を一緒に行っていけたらと思っています。不妊治療と聞くと、ややハードルの高いものと考えられがちですが、どんな些細な内容でも、ご夫婦の悩みに寄り添った治療をご提案していきたいと思いますので、ぜひご相談にいらしてください。



佐藤 千絵 医師
(産婦人科学講座 助教)



小岩 佳夏子 胚培養士
(内丸キャンパス事務室 技術員)

Q 胚培養士とは？

胚（受精卵）を扱う専門職です。体外で精子と卵子を受精させて母体に戻すまでの過程において、主に胚の管理を行っています。受精や培養の他に、胚の凍結・融解、移植を行うのも胚培養士の仕事になります。また、精液検査や精子調整、凍結胚の管理、さらに胚のデータ収集や妊娠成立後には予後調査を行うなど、生殖補助医療全体に携わり陰で支えているのが胚培養士です。

Q 目指したきっかけは？

大学生の頃に胚培養士の仕事を見学する機会があり、命の始まりを身近で感じられる仕事に魅力を感じました。またマウスの受精卵を用いた研究を行っていたため、知識を活かせる仕事だと思い目指しました。

Q 体外受精はどのように行うのでしょうか？

経膈超音波ガイド下にて針を使用し卵巣から卵子を採取し、体外で精子と受精させ得られた受精卵を培養、カテーテルを用いて子宮内に戻す、というのが治療の一連の流れになります。体外受精は卵子に精子をふりかけて受精・培養を行います。顕微授精では細い針を用いて卵子に直接精子を注入して受精を行います。

Q 心がけている事は？

基本的にほとんどの作業を顕微鏡下で行い、加えて人の命を扱っているため常に高い集中力と緊張感を持って仕事を行う必要があります。オン・オフの切り替えをしっかり行い、集中力を維持出来るように心がけています。

Q 胚培養士として皆さんに伝えたいことはありますか？

胚培養士は患者さんと接する機会が少ないため、一般的に認知度が低いと思いますが、患者さんの大切な胚を預かって一番近くで見守っているのが私たちです。「胚培養士」という存在をより多くの方々を知っていただきたいです。



胚凍結の準備

学校法人岩手医科大学

〈令和3(2021)年度〉

決算

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症における感染力の強い変異株の出現により、大学財政状況に与える影響等の見通しが困難となり、計画の一部延長も余儀なくされました。このような状況下で、本学は教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、内丸メディカルセンターの改修工事、感染症対策センターを建設しました。また、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得による本学の財政基盤の更なる強化に努めました。

当期事業活動収支決算は、事業活動収入 564 億 3,413 万円から事業活動支出 578 億 6,854 万円を差し引いた△14 億 3,442 万円が基本金組入前当年度収支差額となり、矢巾附属病院関連等の基本金組入額△13 億 9,864 万円を計上したことにより、当年度収支差額は△28 億 3,306 万円となりました。

1 事業活動収支

(1) 事業活動収入

事業活動収入の合計額 564 億 3,413 万円は、前年度比 41 億 5,619 万円 (8.0%) 増加、予算比では 18 億 2,363 万円 (3.3%) 上回りました。

①学生生徒等納付金 75 億 3,013 万円は、前年度比 4 億 3,204 万円 (5.4%) 減少しました。主な減少要因は、学生数の減少によるものです。

②医療収入 396 億 7,283 万円は、前年度比 39 億 1,940 万円 (11.0%) 増加しました。

附属病院 (医科)、内丸メディカルセンター (医科) を合計した医科部門の医療収入は前年度比 38 億 5,959 万円 (11.1%) の増加、附属病院 (歯科)、内丸メディカルセンター (歯科) を合計した歯科部門の医療収入は前年度比 5,982 万円 (5.5%) の増加となりました。

③補助金合計額は、50 億 3,069 万円の前年度比 3 億 3,477 万円 (6.2%) 減少しました。

教育活動収入の経常費等補助金 41 億 9,157 万円は前年度比 4 億 3,854 万円 (9.5%) 減少し、国庫補助金として私立大学等経常費補助金 16 億 3,630 万円、医療研究開発推進事業費補助金 (いわて東北メディカル・メガバンク機構) 3 億 7,827 万円等、地方公共団体補助金として入院施設等確保事業費補助金 (空床確保事業) 4 億 8,319 万円、ドクターヘリ運航事業補助金 2 億 7,314 万円等がありました。

特別収入の施設設備補助金 8 億 3,912 万円は前年度比 1 億 378 万円 (14.1%) 増加し、地方公共団体補助金として重症病棟整備事業補助金 (岩手県) 4 億 3,340 万円、入院医療機関設備整備事業補助金 (岩手県) 2 億 2,864 万円等がありました。

(2) 事業活動支出

事業活動支出の合計額 578 億 6,854 万円は、前年度比 11 億 3,009 万円 (2.0%) 増加、予算比では 13 億 7,920 万円 (2.4%) 上回りました。

①人件費 229 億 6,636 万円は、前年度比 1 億 1,323 万円 (0.5%) 増加しました。

給与、賞与、所定福利費の合計 214 億 3,821 万円は、前年度比 116 万円 (0.01%) 減少と概ね横ばいを示し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計 14 億 7,155 万円は、前年度比 1 億 1,659 万円 (8.6%) 増加しました。

②医療経費 177 億 454 万円は、前年度比 15 億 8,050 万円 (9.8%) 増加しました。

医薬品費は、前年度比 8 億 4,327 万円 (10.3%) の増加、医療材料費は 7 億 4,551 万円 (9.6%) の増加、給食材料費は 828 万円 (3.8%) 減少しました。

医療収入に対する医療経費割合は 44.6% となり、前年度より 0.5% 減少しました。

③消耗品費 8 億 627 万円は、前年度比 8,036 万円 (9.1%) 減少しました。

④光熱水費は、重油料 3 億 3,098 万円、ガス料 3 億 897 万円、電気料 6 億 9,439 万円、水道料 1 億 3,650 万円、合計 14 億 7,084 万円となり前年度比 9,989 万円 (7.3%) 増加しました。

⑤修繕費は、施設修繕費 2 億 3,028 万円、機器備品修繕費 1 億 9,371 万円、合計 4 億 2,399 万円となり前年度比 4,069 万円 (10.6%) 増加しました。

⑥業務委託費 57 億 5,538 万円は、前年度比 1 億 4,501 万円 (2.6%) 増加しました。

病院別では、附属病院 (医科) 34 億 2,651 万円、附属病院 (歯科) 975 万円、内丸メディカルセンター (医科) 8 億 9,627 万円、内丸メディカルセンター (歯科) 1 億 3,992 万円、その他 12 億 8,293 万円です。

⑦減価償却額 58 億 2,064 万円は、前年度より 2,060 万円減少しました。

⑧その他の諸経費等は 26 億 683 万円となりました。主な内訳は、福利費 2 億 7,138 万円 (学生福利費 3,485 万円、職員福利費 2 億 3,653 万円)、公租公課 2 億 1,207 万円 (消費税 1 億 4,895 万円、法人税・事業税 2,207 万円、固定資産税・都市計画税 3,787 万円等) です。

⑨借入金利息により 7,688 万円を計上しました。

⑩資産処分差額 2 億 3,681 万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

2 資本収支

(1) 資産の部

- ①施設関係支出 6 億 1,201 万円は、感染症対策センター建設による 3 億 9,230 万円等です。
- ②設備関係支出 8 億 5,980 万円は、教育研究用機器備品 8 億 4,200 万円等です。
- ③第 2 号基本基金引当特定資産は、総合移転整備事業資金として 2 億円を積み立てました。
- ④貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料 8 億 5,372 万円、歯科貴金属 874 万円、合計 8 億 6,246 万円です。

(2) 負債、純資産の部

- ①退職給与引当金残高は、136 億 3,131 万円です。
- ②前受金残高 13 億 3,367 万円は、令和 4 年度入学生の学生生徒等納付金等です。
- ③預り金残高 6 億 8,192 万円は、源泉所得税 5,823 万円、県市町村民税 1 億 973 万円、私学共済掛金 1 億 5,085 万円等です。
- ④基本金は 13 億 9,864 万円を組入れし、1,347 億 7,712 万円となりました。
- ⑤当年度収支差額△ 28 億 3,306 万円と前年度繰越収支差額△ 482 億 8,183 万円を合計した翌年度繰越収支差額は、△ 511 億 1,489 万円となりました。
- ⑥純資産の部合計（基本金＋繰越収支差額）は、前年度より 14 億 3,442 万円減少し、836 億 6,224 万円となりました。
- ⑦令和 3 年度末現在で作成する財産目録純資産額（資産総額－負債総額）は 836 億 6,224 万円です。

令和3年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,530,131	人件費	22,966,360
	手数料	164,332	医療経費	17,704,541
	医療収入	39,672,833	消耗品費	806,273
	寄付金	1,135,204	光熱水費	1,470,840
	経常費等補助金	4,191,566	修繕費	423,992
	付随事業収入	1,312,364	業務委託費	5,755,376
	雑収入	1,173,144	減価償却額	5,820,638
		その他の諸経費等	2,606,832	
	教育活動収入計	55,179,574	教育活動支出計	57,554,852
教育活動外収支	受取利息配当金	3,637	借入金等利息	76,877
	教育活動外収入計	3,637	教育活動外支出計	76,877
特別収支	資産売却差額	0	資産処分差額	236,813
	その他の特別収入	1,250,915	その他の特別支出	0
	特別収入計	1,250,915	特別支出計	236,813
	事業活動収入合計	56,434,126	事業活動支出合計	57,868,542
	基本金組入額合計		△ 1,398,641	
	当年度収支差額		△ 2,833,057	

令和3年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	7,530,131	人件費支出	22,857,512
手数料収入	164,332	諸経費支出	28,739,826
寄付金収入	1,357,112	借入金等利息支出	76,877
補助金収入	5,030,687	借入金等返済支出	1,155,000
資産売却収入	28	施設関係支出	612,014
付随事業収入	1,312,364	設備関係支出	859,799
医療収入	39,672,833	資産運用支出	500,200
受取利息・配当金収入	3,637	その他の支出	4,640,843
雑収入	1,174,190	資金支出調整勘定	△ 3,535,397
前受金収入	1,333,665	翌年度繰越支払資金	9,731,627
その他の収入	9,716,078		
資金収入調整勘定	△ 10,890,129		
前年度繰越支払資金	9,233,373		
収入の部合計	65,638,301	支出の部合計	65,638,301

貸借対照表 (令和4年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	101,560,334	固定負債	30,960,874
有形固定資産	92,721,167	流動負債	7,038,373
特定資産	8,603,997	負債の部合計	37,999,247
その他の固定資産	235,170	純資産の部	
流動資産	20,101,152	基本金	134,777,124
		繰越収支差額	△ 51,114,885
		純資産の部合計	83,662,239
資産の部合計	121,661,486	負債及び純資産の部合計	121,661,486

学校法人岩手医科大学

〈令和4(2022)年度〉

予 算

1 予算策定にあたって

2022年度は、内丸地区整備計画をはじめとする各事業に取り組むが、新型コロナウイルス感染症について感染力の強い変異株の出現により大学財政状況に与える影響等を見通すことが困難となっており、計画の延長も余儀なくされている。また、18歳人口減少等少子高齢化時代にあつて、大学を取り巻く環境は大きく変化しているなかで事業資金の確保と附属病院移転支払資金としての借入金の返済を遂行しなければならない。

この様な厳しい経営環境下において、大学運営の安定には入学定員充足による学生生徒等納付金の確保が不可欠である。また、本学の事業活動収入の約7割を医療収入が占めていることから、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターそれぞれの病院機能を最大限活用して患者の確保に努め、医療収入の増収を図るとともにより一層のコスト削

減を図り、中期計画を基に作成した2022年度事業計画遂行のための資金確保に努める。

2022年度予算は、収入については医療収入等の増収に努めるほか、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得を図るものとする。支出については社会的要請に応じた教育・研究・診療を円滑に遂行できるよう配慮のうえ、可能な限り圧縮した予算とした。

2 主な予算項目

2022年度事業活動収支予算(項目1～6)、資金収支予算(項目7～10)の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金73億5,110万円(事業活動収入に占める割合13.6%)、医療収入397億6,081万円(同73.5%)、補助金33億1,721万円(同6.1%)を計上しました。これら3項目で事業活動収入の93.2%を占めています。その他の収入は36億5,329万円(同6.8%)を計上し、事業活動収入予算総額は540億8,241万円を計上しました。

支出予算では、人件費231億5,464万円(事業活動支出に占める割合40.7%)、医療経費(医薬品費、医療材料費、給食材料費)174億9,369万円(同30.7%)、教育研究用等の経費など162億8,408万円(同28.6%)を計上し、事業活動支出予算総額は569億3,241万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△30億円の組入を計上したことにより、2022年度は△60億5,000万円の支出超過(赤字)を計上した予算策定となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約73.5%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約71.4%を占めています。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部46億4,173万円、歯学部13億9,225万円、薬学部6億8,627万円、看護学部5億4,335万円、医療専門学校8,750万円、合計73億5,110万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院(医科)、内丸メディカルセンター(医科)、附属病院(歯科)、内丸メディカルセンター(歯科)を合計した医療収入予算は、入院収入272億4,139万円、外来収入122億6,302万円、その他の医療収入2億5,640万円、合計397億6,081万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学等経常費補助金16億5,386万円、その他の国庫補助金5億8,507万円、また、地方公共団体補助金は9億8,781万円を計上し、合計32億2,674万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金9,047万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は217億6,665万円、また、退職金関係では13億3,139万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計231億5,464万円を計上しました。

5. 医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費 89 億 1,786 万円(医療経費率 22.4%)、医療材料費 83 億 8,073 万円(同 21.1%)、給食材料費 1 億 9,510 万円(同 0.5%) を計上し、医療経費は合計 174 億 9,369 万円(同 44.0%) を計上しました。

6. 研究費

医学部・薬学部の講座研究費は、講座の組織改編等に伴い基本額を調整し配分額の変更を行いました。医学部・歯学部・看護学部・教養教育センターの講座研究費及び個人研究費にあたる特別研究費は、前年度と同額を計上しました。

7. 借入金等返済支出

市中金融機関からの借入金返済資金として 15 億 4,000 万円を計上しました。

8. 借入金等利息支出

市中金融機関からの借入金利息資金として 7,125 万円を計上しました。

9. 施設関係支出

内丸地区歯学部移設関係など、合計 1 億円を計上しました。

10. 設備関係支出

病院医療情報システム整備 3,310 万円など、合計 10 億円を計上しました。

令和4(2022)年度 事業活動収支予算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,351,100	人件費	23,154,640
	手数料	191,850	医療経費	17,493,690
	医療収入	39,760,810	消耗品費	701,700
	寄付金	657,420	光熱水費	1,341,190
	経常費等補助金	3,226,740	旅費	128,750
	付随事業収入	1,470,410	修繕費	348,400
	雑収入	995,020	業務委託費	5,808,790
			減価償却額	5,660,080
		その他の諸経費等	2,124,640	
	教育活動収入計	53,653,350	教育活動支出計	56,761,880
教育活動外収支	受取利息配当金	3,610	借入金利息	71,250
	教育活動外収入計	3,610	教育活動外支出計	71,250
特別収支	その他の特別収入	425,450	資産処分差額	99,280
	特別収入計	425,450	特別支出計	99,280
	事業活動収入合計	54,082,410	事業活動支出合計	56,932,410
	予備費		200,000	
	基本金組入前当年度収支差額		△ 3,050,000	
	基本金組入額合計		△ 3,000,000	
	当年度収支差額		△ 6,050,000	

令和4(2022)年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	7,351,100	人件費支出	22,998,420
手数料収入	191,850	諸経費支出	27,940,270
医療収入	39,760,810	借入金等利息支出	71,250
寄付金収入	950,420	借入金等返済支出	1,540,000
補助金収入	3,317,210	施設関係支出	100,000
付随事業収入	1,470,410	設備関係支出	1,008,167
受取利息・配当金収入	3,610	資産運用支出	503,000
雑収入	995,020	その他の支出	4,138,960
前受金収入	1,448,370	予備費	500,000
その他の収入	8,796,480	資金支出調整勘定	△ 3,433,030
資金収入調整勘定	△ 9,516,220	次年度繰越支払資金	8,802,023
前年度繰越支払資金	9,400,000		
収入の部合計	64,169,060	支出の部合計	64,169,060

詳細な説明・確認等を希望される方は、法人事務部経理課(内線 4553・4554)まで照会願います。

薬学部白衣授与式が挙行されました

5月13日(金)、大堀記念講堂において令和4年度薬学部白衣授与式が挙行されました。この式は、「実務実習」にて臨床の場に第一歩を踏み出す5学年に白衣を授与し、医療に大きく貢献できる薬剤師を目指す心構えを新たにすることを目的に行われます。

式では、学生を代表して浅沼克明さん、佐藤朱莉さんに河野薬学部長、松浦実務実習部会長から白衣が授与されました。学生を代表し、林和奏さんは「高度で良質な医療の実践と地域そして社会への貢献を目指し、勉学に励み、本学の建学の精神である「誠の人間」を目指し、誠心誠意臨みます」と力強く宣誓しました。



授与された白衣に身を包む学生ら

医療専門学校のオープンキャンパスが開催されました

令和4年度岩手医科大学医療専門学校の第1回オープンキャンパスが5月22日(日)、第2回が6月25日(土)に医療専門学校上ノ橋校舎で開催されました。高校生や保護者等多くの方が来校され、総勢36名(第1回24人、第2回12人)が参加しました。

当日は、歯科衛生士の職業紹介や体験実習、在学生とのフリートーク等、多くの企画が用意され、好評を博しました。

今後のオープンキャンパスの開催予定			
第3回	7月23日(土)	第6回	9月11日(日)
第4回	8月4日(木)	第7回	10月1日(土)
第5回	8月27日(土)	第8回	12月3日(土)
※いずれも10時から12時			



超音波スケーラー体験

内丸MCと連携病院が感染対策向上のための「石割桜感染連携会」を立ちあげました

6月6日(月)、内丸メディカルセンター入院棟10階会議室において、岩手医科大学附属内丸メディカルセンターと感染防止対策で連携する内丸病院、鶯宿温泉病院、孝仁病院の3病院に盛岡市保健所も加わり、合同カンファレンスと連携締結調印式が行われました。

令和4年度の診療報酬改定では、感染防止対策加算から「感染対策向上加算」に改められ、要件の見直しがありました。日頃の感染対策に加え、新型コロナウイルス感染症の院内クラスター等への対応のため、連携医療機関の相互支援を強化することが求められています。内丸メディカルセンター感染制御部では、連携医療機関や高齢者施設等へのクラスター対策支援を行ってきた実績から、感染対策向上加算1の届出を行い、併せて連携病院とともに定期カンファレンスや合同研修会を行う「石割桜感染連携会」を立ちあげました。

第1回合同カンファレンスには、下沖内丸メディカルセンター長をはじめ、各病院の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師や盛岡市保健所の矢野亮佑所長等、約30名が参加しました。今回は新型コロナウイルス感染症対策をテーマにして、内丸メディカルセンターからCOVID-19の基調講演と感染対策のポイントを示し、次いで各施設の取り組みや自施設で発生したクラスター対応状況等の情報共有が行われ、有意義な会となりました。

最後に、各病院長による連携締結調印式が執り行われ、これから4病院と盛岡市保健所とが、地域の感染対策向上のために連携していくことを確認しました。



スライドを用いた各施設の感染対策の取り組み報告



左から：下沖内丸メディカルセンター長、西成尚人孝仁病院長、矢野亮佑盛岡市保健所長、宮川朋久内丸病院長、泉山学仁鶯宿温泉病院事務長

看護学部宣誓式が挙行されました

6月22日（水）、大堀記念講堂において令和4年度看護学部宣誓式が挙行されました。

この式は、3学年87名が今年10月から約半年間にわたる臨地実習（領域別実習）を行うにあたり、看護職者を目指すものとしての誓いを立てることを目的に行われます。

式では、三浦看護学部長および佐藤看護部長から学生一人ひとりへロウソクの灯が授与されました。続いて、学生を代表して菊地玲央さん、橋本俊祐さん、福田珠久さんが看護の道を志す決意を力強く宣誓しました。その後、三浦看護学部長の式辞、佐藤看護部長の祝辞、校歌斉唱（演奏のみ）を行い、閉式となりました。



ロウソクの灯を授与される学生ら

新入職員の声

～講話を聞いて学んだこと～

4月12日に新入職員オリエンテーションが行われ、学長・病院長から講話がありました。講話の感想と岩手医科大学職員としての抱負をご紹介します。



中央放射線部 診療放射線技師
ほんじょう まひろ
本庄 真宙

「チーム医療は一人が崩れると全体が崩れる」。チーム医療には多職種との連携が大事であると感じました。これから本学の職員として働くうえで「チーム医療」と「患者さんへの気遣い」を重点に取り組んでいこうと思います。医療事故、インシデントやアクシデントを起こさない為にも積極的にコミュニケーションを取り、患者ファーストの医療を心掛けていきます。



中央臨床検査部 臨床検査技師
すがわら ひより
菅原 ひより

チーム医療の一員として責任感を強く持ち、職務を全うしなければならないと改めて実感しました。患者さんのことを一番に考え、寄り添った医療を提供することが私の抱負です。その為にも、活躍されている先輩方の姿を見て勉強し、自身の業務をしっかりと行うことはもちろん、多職種と連携して患者さんに安心してもらえる対応を心掛け、最善を尽くせるよう励んでいきます。



薬剤部 薬剤師
くどう ひより
工藤 日和

学生時代に何度も聞いていた「医療人たる前に、誠の人間たれ」。社会人になってその言葉の重みを強く感じるようになりました。患者さん中心の医療を提供する為には、医療人の前に立派な1人の人間になることが必要であると感じます。分からないことはそのままにせず、医療の技術、サービスの向上に貢献していけるよう、自己研鑽に励みたいです。



医学部教務課 事務員
なかの はるな
中野 春菜

「医者のみで医療は成立しない」という言葉が非常に心に残りました。私自身、直接医療に携わることはできませんが、これから医療に携わる学生さんのサポートをすることで医療に貢献していきたいです。また、「1人の行動が全ての信頼に繋がる」を意識し、多くの医療機関や地域の方々から注目されている本学で働けることに誇りを持ち、先輩や上司から知識をいただきながら精一杯努力していきます。



リハビリテーション部 理学療法士
すがわら こうだい
菅原 昂大

患者さんに適した最善の医療を提供する為には、高度な知識や技術はもちろん、基礎をしっかり理解しそれを応用していくことが必要になることを学びました。また、患者さんやご家族が理解できる言葉で伝える等、患者さん目線に立つことがとても重要になります。古く長い歴史のある本学で働けることに感謝し、常に気を引き締め高度で質の良い医療を提供していきたいです。



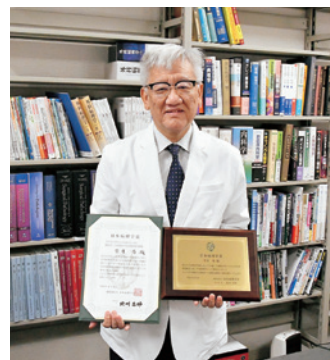
西6階B病棟 看護師
ふじなみ ゆうき
藤波 勇貴

祖父江学長、小笠原病院長の講話を聞き、東北そして日本中世界中から期待を置かれている本学の職員として、附属病院の特徴である地域医療、チーム医療、先進医療を念頭に医療を提供していきたいと強く感じました。私たち一人ひとりの行動が、病院全体の信頼・評価に繋がっていることを自覚し、患者さんの為の病院を常に意識し、チーム医療の一員として常に成長していきたいです。

表彰の栄誉

病理診断学講座の菅井 有 教授が 日本病理学会春季総会で日本病理学賞を受賞しました

2022年の日本病理学会春季総会（会長：神戸大学、横崎宏教授）において宿題報告（題名：Isolated gland/stroma-based multi omics解析に基づいた大腸腫瘍の発生進展過程の解明）を担当させていただきました。日本病理学賞はこの宿題報告者に与えられる賞です。毎年3名が選出されますが、日本病理学会において最高位に位置する賞とされています。本学では初めての受賞になりますが、このような名誉ある賞を受賞できたのも小川彰理事長、祖父江憲治学長初め病理診断学講座及び関連の皆様のご支援のお陰と思います。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



日本病理学会では現在6つの賞を学会員に提示しています。その内訳は30代前後の会員を対象とする病理学研究新人賞、40代前後の会員を対象とする学術奨励賞、50代前後を対象とする学術研究賞もしくは症例研究賞（通称A演説、B演説）、60代前後の日本病理学賞（通称宿題報告）と病理診断学賞（比較的応募者が少なく穴場感がある）です。これらは学術委員会で事前に厳格な審査が行われており、この審査で選出されることは至難の技とされています。私は4年間学術委員をしていましたが、委員会は学会を代表する錚々たるメンバーで構成されており、審査レベルも相当に高度であると感じました。学術委員会での活動は私にとって極めて刺激性の高いもので、研究を行う上での高いモチベーションを維持することができました。

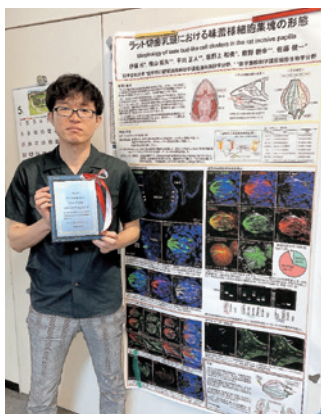
宿題報告を終えてみて感じることは、人がやらないような独創的なテーマを継続的に行うことが研究の評価を高めるためには重要であるということです。加えて地方で研究活動をしていても研究論文を地道に積み上げていけば、高評価を得られる可能性は十分にあるということも実感しました。研究評価は客観的になされるものですが、それは論文数やimpact factor、研究費の獲得のみではありません。学会がオーソライズしている賞を目指すことも自分を客観的に評価する上で有用だと思えます。

最後に中堅の病理学研究者は学術研究賞（A演説）もしくは症例研究賞（B演説）を目指して欲しいと思います。特にA演説は教授の登竜門とされており、教授を志す者はまずはこれを受賞することが推奨されています。これまで本学からの選出は3名のみでありますので（笹生俊一先生、田村元先生、菅井）、本学の病理学講座の研究者には是非このA演説、B演説に挑んで欲しいと思っています。

私は来年定年になりますが、本学のさらなる発展を心底より祈念しています。皆様におかれましては病理診断学講座に対して今後ともご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

（文責：病理診断学講座 教授 菅井 有）

解剖学講座細胞生物学分野の横山 拓矢 講師が 日本獣医解剖学会で学術奨励賞を受賞しました



この度、第2回獣医解剖アカデミア（春の日本獣医解剖学会・獣医解剖分科会学術集会：令和4年4月2日：札幌市・Web開催）におきまして、演題「ラット切歯乳頭における味蕾の免疫組織化学的特徴および感覚神経支配」を発表し、学術奨励賞（一般部門）を受賞しました。

本演題は、当教室で指導している大学院歯学研究科博士課程4年生の伊藤元先生（口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔分野）の研究テーマをまとめたものです。ラットでは、上顎切歯の後方にある切歯乳頭に味蕾が存在しております。その細胞構成と神経支配を解析し、舌味蕾と同様の細胞型で形成され、膝神経節による感覚神経支配を受けていることを明らかにしました。本研究は、Journal of Anatomy誌に英文論文として掲載され、表紙にも選ばれております。その上、学術奨励賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。

最後に、伊藤元先生をはじめ、本研究の遂行にご尽力頂きました諸先生方に深く感謝申し上げます。

（文責：解剖学講座細胞生物学分野 講師 横山 拓矢）

表彰の栄誉

大学院医学研究科博士課程4年生の松浦 真典 先生が 東北整形外科災害外科学会の若手症例報告セッションで最優秀演題賞を受賞しました

この度、第119回東北整形外科災害外科学会の若手症例報告セッションで「デコルマン損傷を伴う大腿・脛骨GustiloⅢBの1例」で最優秀演題賞を受賞しました。

私は整形外科所属ですが、外傷を学ぶため1年間救急科で勉強させていただきました。貴重な重症外傷を沢山経験し、3回学会発表させていただきました。主治医として救急対応から手術まで経験した症例で受賞することができ嬉しく思います。

デコルマン損傷は四肢がタイヤに轢過されて生じる軟部組織の損傷形態です。初期は皮膚が正常であることが多いため診断が難しく、見逃すと感染や出血性ショックを伴います。今回、早期診断し遅延なく治療介入し良好な成績を得ました。閉鎖陰圧療法や抗菌薬局所投与であるiSAP (intra Soft tissue Antibiotics Perfusion) を駆使し感染制御し皮膚再建ができました。

最後に指導医の救急・災害医学講座の菅重典特任講師を始めとして、ご指導いただいた救急科諸先生方、勉強のため救急科への短期移動を許可していただいた整形外科諸先生方に深く感謝申し上げます。

(文責：大学院医学研究科博士課程4年 松浦 真典)



松浦先生、菅特任講師

岩手医科大学が令和4年度デマンドサイドマネジメント表彰総合システム部門で 一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター振興賞を受賞しました



左から：小川理事長、施設課 岩崎さん、主濱施設課総括課長

岩手医科大学は、附属病院のエネルギーセンターに設置している高効率熱源システム、並びに当該システムの運用について継続的な検証を行い、効率的に運転方法の改善を行っていることなどが電力負荷平準化効果に優れていると評価され、一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターが主催する令和4年度デマンドサイドマネジメント表彰総合システム部門において、「一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター振興賞」を受賞しました。

エネルギーセンターは、災害等により外部からのエネルギー供給が途絶した場合でも、基幹災害拠点病院である附属病院が支障なく医療提供体制を整えることができるよう、燃料種を二重化し冗長化を図ったコージェネレーションシステム等により、1週間程度はエネルギーを自立供給できる機能を備えるだけでなく、そのシステムの排熱を有効利用した熱源機器類の運転、太陽光発電設備や地中熱利用設備といった再生可能エネルギーの積極的な活用、外気温度の低い地域特性を生かしたフリークーリングの実施などにより、電力負荷の平準化、省エネルギー化も実現しています。

(文責：施設課 技術員 岩崎 和貴)

岩手県こころのケアセンター釜石地域センターの阿部 静子 保健師が 釜石警察署から感謝状が贈呈されました

6月9日(木)、釜石警察署において、岩手県こころのケアセンター釜石地域センターの阿部静子保健師に感謝状が贈られました。

5月11日(水)に釜石市鵜住居町地域において、道に迷った高齢女性を発見し適切な措置を講じ警察の保護活動に協力したことが認められました。

釜石警察署の前川剛署長は、「今回保護された高齢女性は、病気が原因で帰り道が分からなくなり、軽装で人気のない道を徘徊しており、発見が遅ければ生命、身体に危険を及ぼす状態でした。阿部さんは発見すると直ちに声をかけ通報し、警察官が来るまでの間、車の中で保護して頂きました。阿部さんの優しさ・親切心によってその女性を救うことができました」と感謝の意を表されました。



阿部保健師、前川署長

理事会報告（5月定例－5月30日開催）

1. 2021年度事業報告について
2. 2021年度決算及び監査報告について
3. 任期満了に伴う監事の選任について

監事 小野寺 勲（再任）

監事 池田 克典（再任）

（任期 2022年8月1日から2024年7月31日）

4. 教員の人事について

医学部外科学講座 准教授

片桐 弘勝（前 同講座講師）

医学部内科学講座呼吸器内科分野 特任准教授

長島 広相（前 同分野講師）

（発令年月日 2022年6月1日付）

5. 令和5年度学納金等について

本学及び他大学の学費改定状況や入学志願者の動向等を考慮し、各学部いずれも据置きとすることを承認した。

6. 岩手医科大学公益通報者の保護等に関する規程の一部改正について

公益通報者保護法の一部改正及び同法に基づく内部通報対応体制の整備に関する指針の策定に伴い、当該規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年6月1日）

理事会報告（6月定例－6月27日開催）

1. 教員の人事について

医学部病理診断学講座 講座内教授

佐藤 孝（前 統合基礎講座病理学講座機能病態学分野 講座内教授）

薬学部薬科学講座創薬有機化学分野 准教授

辻原 哲也（前 同分野 助教）

薬学部生物薬学講座機能生化学分野 准教授

關谷 瑞樹（前 同分野 助教）

（発令年月日 2022年7月1日付）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを含め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第10回目のご芳名紹介です。(令和4年4月1日～令和4年5月31日)

■ 法人・団体等 (2件)

<12,500,000>

株式会社 こずかたサービス (岩手県紫波郡)

<1,000,000>

医療法人 弘仁堂 (長野県上田市)

■ 個人 (5件)

<2,000,000>

小川 彰 (役員)

<10,000>

坂下 伸夫 (他)

<ご芳名のみ>

小澤 正人 (医13)

高橋 純子 (医34)

岸 東彦 (医33)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	259	121,457,220
在 学 生 ご 父 母	166	55,620,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	27	30,980,000
教 職 員	31	5,660,000
一 般	18	461,769,001
法 人 ・ 団 体	151	89,845,481
合 計	652	765,331,702

(令和2年9月1日～令和4年5月31日現在)

創立120周年記念事業募金

第46回目のご芳名紹介です。(令和4年4月1日～令和4年5月31日)

■ 法人・団体等 (4件)

<25,000,000>

株式会社 こずかたサービス (岩手県紫波郡)

<1,000,000>

医療法人 弘生堂 (長野県上田市)

<ご芳名のみ>

協栄テックス株式会社 (岩手県盛岡市)

医療法人 はやし會 はやし内科クリニック
(宮城県仙台市)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,104	669,315,089
在 学 生 ご 父 母	930	543,622,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	100	124,170,000
教 職 員	268	35,972,000
一 般	146	48,785,010
法 人 ・ 団 体	402	1,224,384,000
合 計	2,950	2,646,248,099

(平成26年6月1日～令和4年5月31日現在)



想いは1枚の写真と共に

1枚の写真には、はにかんだ表情のAさんを中央に、ウエディングドレス姿の娘さんと、笑顔の奥さんが並んでいる。その周りを看護師達が囲み、手作りのHappy Weddingのフラグが揺れている光景だ。Aさんは60歳で癌と診断され、治療のため入院を繰り返していた。今回、娘さんの結婚式を数週間後に控える中、体調を崩し再入院となった。入院後のAさんは、自分で動くのが難しい状態であったが、奥さんから「間近に迫った結婚式に参加させたい」と病棟に電話相談が入った。Aさんの状態では外出も困難で、コロナ禍で面会制限の中、奥さんの希望に応じることは難しい状況であった。そんな中、1人の看護師から「病室で娘さんの花嫁姿を見せられないだろうか」と声があがった。私達は、ご家族の希望を叶えたいとの想いが高まり、医師に相談すると、面会の許可を得ることができた。Aさんの体調や感染対策を考慮し、結婚の記念撮影を病棟で行う準備を進めていった。撮影日が決まると、Aさんから「座る練習をしたい」「娘を任

せられる相手だから、嫁に出すのは寂しくないよ」と父親の想いが語られ、活気が感じられるようになった。撮影当日、モーニングを羽織ったAさんは、ベッドの上から娘さんを迎えた。「ウエディングドレスは、父が選んで準備してくれていたドレスです」と娘さんが嬉しそうに教えてくれた。撮影の日から1週間後にAさんは亡くなった。その数日後、奥さんから「現実には出来るとは思っていなかった。まるで、ドラマのようだった」という言葉と共に、病棟に写真が届けられた。記念撮影後、日常業務に追われる毎日だったが、その写真を見て私達は、患者さんとご家族の想いをくみとることができた瞬間を思い出した。父親としての役割を果たすため、娘さんとの記念撮影を実現したAさんの姿はスタッフ全員の心に残っている。私達は、これからも患者さんやご家族の想いに寄り添う看護を続けていくと決心した1枚となった。

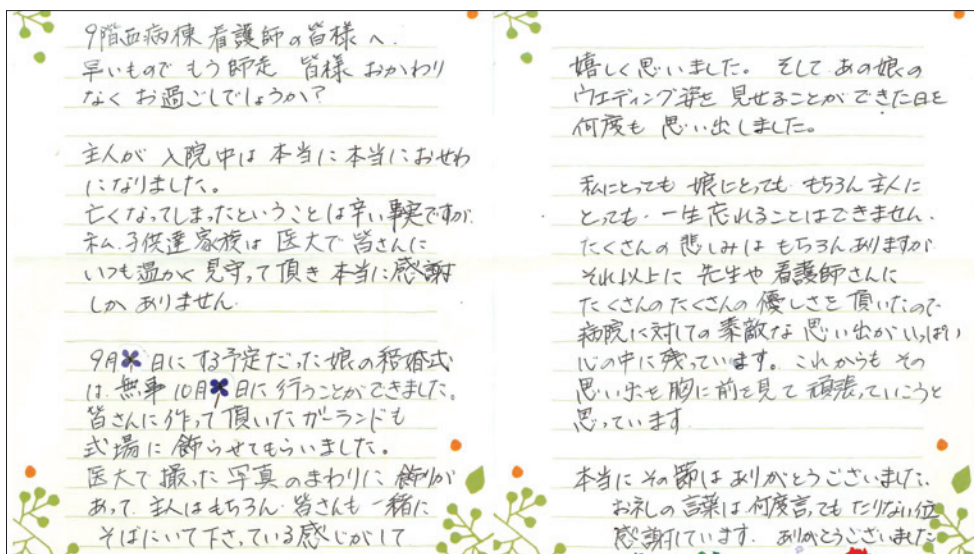
(文責：西9階B病棟看護師 本堂 寛幸)



病棟での記念撮影



結婚式場に飾ったガーランドと写真



Aさんの奥さんからの感謝の手紙

薬剤部 (医薬品管理部門)

医薬品管理部門は、医薬品管理供給室と周術期支援室の2部署で構成されています。

医薬品管理供給室では、医薬品の購入・在庫・品質管理と注射薬調剤を中心に行っており、注射薬自動払出システムやバーコードによる鑑査システムを導入して1施用ごとの注射薬の払出を行い、業務の効率化や調剤過誤防止に大きく貢献しています。

周術期支援室では、手術室や患者サポートセンターを担当しており、手術室では麻薬をはじめとする法的規制が求められる薬剤の厳格な管理や、術前から術中、術後にいたるまでの薬学的管理を行っています。また、患者サポートセンターでは予定入院される患者さんの使用薬剤の確認や副作用歴・アレルギー歴の把握、術前中止薬のスクリーニングなどを行い、得られた情報を多職種で共有することにより、入院後の手術の延期などの患者さんの不利益を回避し、安

全に手術が施行できるよう努めています。

この他にも病棟薬剤業務など様々な業務を担っていますが、薬剤部の理念である「患者さんの安全確保と薬物療法への責任、医療の質向上への寄与」を常に念頭におきながら業務に取り組んでいます。

(薬剤長 米澤 裕司)



西8階B病棟

西8階B病棟は、婦人科・乳腺外科を中心に女性患者さんが入院されています。検査や手術、化学療法、放射線治療、症状改善を目的とした緩和ケアも行っています。女性のライフステージに目を向け、疾患だけではなく、治療前後の精神的な悩みや喪失感など患者さんの思いに寄り添った看護を実践しています。求められる看護は多岐にわたり、専門性も必要とされるため、医師・管理栄養士・薬剤師・PLN・認定看護師による勉強会を重ね、看護実践能力の向上を図っています。また、痛みによる身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に早期に介入し、多職種カンファレンスでアセスメントを行い、生活の質を高めるための支援に取り組んでいます。当病棟を希望される患者さんも多く、患者さんや

ご家族から感謝の手紙を頂くこともあります。その言葉を励みに、患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、やさしさと思いやりのある看護を提供していきたいと思えます。

(主任看護師 村上 幸子)



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	塩山 亜紀
齋野 朝幸	高橋 奈美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
佐藤 泰生	畠山 正充
西里 真澄	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
伊藤 奈央	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

大学報7月号を最後までお読みくださりありがとうございます。

今回の特集では、「リプロダクションセンター」を紹介しました。

2022年4月から不妊治療が保険適応になったことで、子供が欲しいと思いつつも経済的理由から不妊治療をあきらめていた方もおられたと思います。さらに、「リプロダクションセンター」の役割が期待されます。

皆様、まだまだ気が許せない日々が続いておりますが、体調には充分注意して暑い夏を乗り切りましょう。

(編集委員 佐藤 真結美)

岩手医科大学報 第542号

発行年月日/令和4年7月31日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111(内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



総合診療医学講座 准教授 大間々 真一

総合診療医学講座

総合診療医学講座は2017年4月に本学に設置された講座で、臓器・疾患にとらわれずに幅広く対応し、地域医療を支える視点を持つ医師の養成を目指しています。

当講座は岩手医科大学附属内丸メディカルセンターで総合診療科の外来診療を行っており、症状や訴えからはどの専門診療科でみてもらったらよいか判断が難しい患者さんの初診を行い、総合診療科で対応可能な患者さんは当科で、専門診療科の診断や対応が必要である場合は専門診療科に振り分ける初診外来、「プライマリー外来」を行なっています。また、不明熱や診断困難な患者さんを内丸メディカルセンターや岩手医科大学附属病院の専門診療科、および、盛岡近郊のみならず岩手県全域と隣接する他県の多くの医療機関からご紹介いただいています。

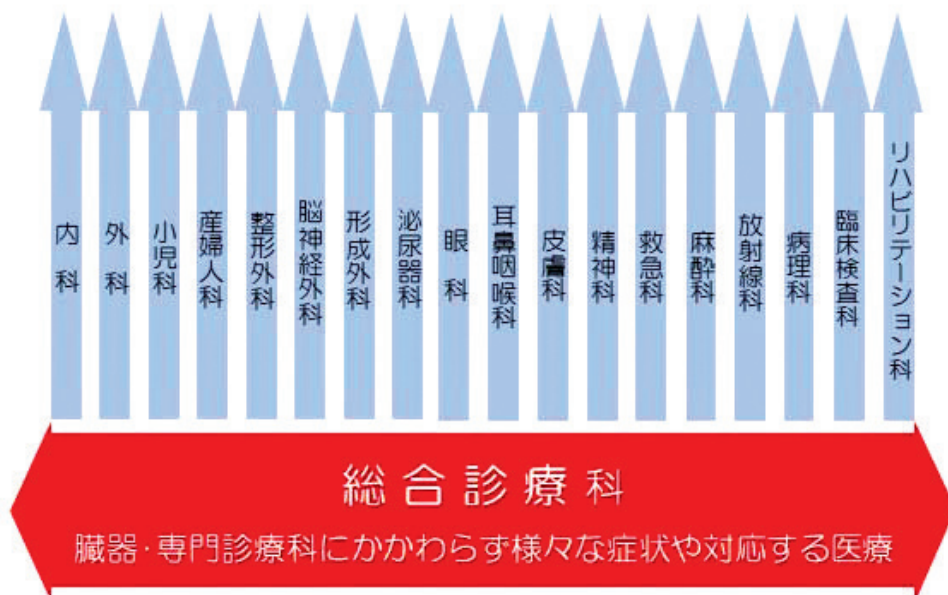
プライマリー外来の初診患者さんや他の医療機関からの紹介患者さんを、当講座スタッフの指導のもとに内科専攻医、研修医、スーパーポリクリ

と一緒に診察や対応を行ないながら、総合医の視点を持つ医師の養成を行なっており、また、2018年から始まった新専門医制度で内科、外科、小児科、産婦人科、救急科などに並ぶ基本領域の専門医に加えられた総合診療専門医の養成も行なっています。

研究関連では地域住民の健康水準の向上と疾病予防をめざし、矢巾町と協力して高齢者の通信機能付き携帯型活動量計による運動介入の効果に関する研究、ナトリウムの一部をカリウムに置き換えたナト・カリ塩による介入効果に関する研究、および、釜石市と協力して企業労働者の通信機能付き家庭血圧計による血圧自己測定の効果に関する研究を行なっています。

まだまだ新しい講座ですが、総合医または総合医の視点を持つ医師の養成と、高度専門医療を提供する岩手医科大学附属病院の中の地域に寄り添い地域を支える総合医療の拠点となるよう努めています。

臓器別・専門診療科別による高度な医療



新専門医制度の総合診療科の特徴